



## 2020年2月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年10月11日

上場会社名 株式会社エディア  
 コード番号 3935 URL <http://www.edia.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 賀島義成

問合せ先責任者 (役職名) 管理部執行役員 (氏名) 米山伸明

TEL 03-5210-5801

四半期報告書提出予定日 2019年10月11日 配当支払開始予定日 未定

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年2月期第2四半期の連結業績(2019年3月1日～2019年8月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年2月期第2四半期	1,329	56.5	49		59		64	
2019年2月期第2四半期	849		199		220		221	

(注) 包括利益 2020年2月期第2四半期 64百万円 ( %) 2019年2月期第2四半期 221百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年2月期第2四半期	13.51	
2019年2月期第2四半期	50.49	

当社は2018年2月連結会計年度末より連結財務諸表の作成を始めたため、2019年2月期第2四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年2月期第2四半期	1,653	387	23.4
2019年2月期	1,778	449	25.2

(参考) 自己資本 2020年2月期第2四半期 384百万円 2019年2月期 448百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年2月期		0.00		0.00	0.00
2020年2月期		0.00			
2020年2月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

### 3. 2020年2月期の連結業績予想(2019年3月1日～2020年2月29日)

2020年2月期の連結業績予想につきましては、現時点で合理的な業績予想の算定ができないことから記載しておりません。

(%表示は、対前期増減率)

通期	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有  
新規 社 (社名) 、 除外 1 社 (社名) 株式会社A&E Games
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年2月期2Q	4,794,000 株	2019年2月期	4,794,000 株
期末自己株式数	2020年2月期2Q	96 株	2019年2月期	45 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年2月期2Q	4,793,915 株	2019年2月期2Q	4,390,970 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
3. その他	11
継続企業の前提に関する重要事象等	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

当社グループを取り巻く環境におきましては、2018年のスマートフォン出荷台数が前年比2.6%減の3,116.7万台と昨年に次ぐ過去2番目の出荷実績となりました（株式会社MM総研調べ、2019年2月現在）。今後も、スマートフォンの多様化及び高性能化に伴い、スマートフォンユーザーの拡大はさらに進展していくものと予想されます。

また、2017年におけるモバイルコンテンツ市場は2兆1,109億円（対前年比113%）、中でもスマートフォン市場は2兆590億円（対前年比114%）と年々成長を続けております。スマートフォン市場の内、ゲーム市場が1兆3,632億円（対前年比115%）、電子書籍市場が2,419億円（対前年比117%）、音楽コンテンツ市場も1,033億円（対前年比110%）といずれも拡大傾向にあります（一般社団法人モバイル・コンテンツ・フォーラム調べ、2018年7月現在）。一方で、当該ゲーム市場には多くのスマートフォンゲームが投入され、競争が激化しており、より高品質のゲームを投入するために開発費が増加する傾向にあります。また、電子書籍市場においても、インターネット上の小説等をコンテンツ化するビジネスモデルに多くの競合他社が参入しており、その作品確保の競争が激化しています。さらに、音楽コンテンツ市場においても、消費者ニーズの多様化に伴う構造変化に晒されています。

このような事業環境の中、当社グループは総合エンターテインメント企業として、各グループ会社が保有するコンテンツを軸に、当社の得意とするモバイル周辺の技術及び位置情報とエンターテインメント性を融合させた各種サービスの提供に注力して参りました。

当第2四半期連結累計期間のゲームサービスにおきましては、運営移管を受けたタイトルにより売上高は堅調に推移しております。中でも、『アイドルうおず〜100人のディーバと夢見がちな僕〜』を始めとする各タイトルにおける周年イベント施策が奏功し収益拡大に貢献いたしました。また、ライフエンターテインメントサービスにおきましては、AppStore、Google Play向け本格ナビゲーションアプリ『MAPLUS キャラdeナビ』において、アニメソング界の帝王「水木一郎」のキャラチェンジセットを追加するなど、再成長に向けた施策を継続しております。

株式会社ティームエンタテインメントにおきましては、前期立ち上げた女性向けCDレーベル「MintLip（ミントリップ）」より『A's×Darling（アズダーリン）』が堅調に推移し、また新シリーズ『DIG-ROCK（ディグロック）』につきましても、CD販売に加えてグッズ販売も好調であり収益に貢献いたしました。

株式会社一二三書房におきましては、ライトノベルをコミック化した『千のスキルを持つ男 異世界で召喚獣はじめました』や電子書籍販売が好調であり、当社グループの業績拡大に大きく貢献しております。

以上の通り、収益性のあるゲームサービス及びライフエンターテインメントサービスによる安定した売上高の確保と子会社の書籍やドラマCDの堅調な推移により、グループ収益は改善傾向にあり、前期から取り組んでいるコスト削減が進展した結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,329,386千円（前年同四半期56.5%増）、営業損失は49,622千円（前年同四半期は199,994千円の営業損失）、経常損失は59,393千円（前年同四半期は220,317千円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は64,789千円（前年同四半期は221,698千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

なお、当社グループはエンターテインメントサービス事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載はしていません。

### (2) 財政状態に関する説明

#### 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は1,653,636千円となり、前連結会計年度末に比べ124,820千円の減少となりました。これは主に売掛金が現金及び預金が減少したことによるものであります。

負債合計は1,266,634千円となり、前連結会計年度末に比べ62,598千円の減少となりました。これは主に社債が増加したものの、未払金や借入金が増加したことによるものであります。また、純資産合計は387,001千円となり、前連結会計年度末に比べ62,222千円の減少となりました。これは主に当第2四半期連結累計期間が四半期純損失となり利益剰余金が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、スマートフォンゲーム業界を取り巻く環境の変化が激しく、当社グループのゲームタイトルの売上見込について、信頼性の高い業績予想の算定が難しいことから、業績予想は非開示とさせていただきます。なお、今後の進捗を踏まえ、算定が可能になり次第速やかに開示いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	853,814	735,938
売掛金	524,436	560,354
商品及び製品	38,045	38,777
仕掛品	9,727	20,480
原材料及び貯蔵品	67	71
前払費用	18,532	20,167
未収入金	20,121	19,960
未収消費税等	11,868	147
その他	15,145	9,423
貸倒引当金	△21,098	△21,641
流動資産合計	1,470,660	1,383,680
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	11,995	10,471
工具、器具及び備品(純額)	2,293	3,498
有形固定資産合計	14,288	13,969
無形固定資産		
ソフトウェア	131,380	96,411
ソフトウェア仮勘定	164	2,726
のれん	96,372	85,244
無形固定資産合計	227,917	184,383
投資その他の資産		
敷金及び保証金	62,596	68,421
その他	2,994	3,181
投資その他の資産合計	65,590	71,602
固定資産合計	307,796	269,955
資産合計	1,778,457	1,653,636

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年8月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	123,414	154,703
短期借入金	515,000	490,000
1年内返済予定の長期借入金	113,304	71,185
未払金	350,750	182,461
未払費用	13,060	21,088
未払法人税等	17,244	8,641
未払消費税等	5,905	16,728
預り金	17,379	13,660
賞与引当金	15,841	13,510
情報利用料引当金	5,072	4,288
事業整理損失引当金	35,275	8,974
返品調整引当金	20,524	22,971
その他	250	250
流動負債合計	1,233,022	1,008,462
固定負債		
長期借入金	91,656	103,978
社債	—	148,800
退職給付に係る負債	4,554	5,393
固定負債合計	96,210	258,172
負債合計	1,329,233	1,266,634
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,167,101	1,167,101
資本剰余金	1,157,101	1,157,101
利益剰余金	△1,875,248	△1,940,038
自己株式	△89	△117
株主資本合計	448,865	384,047
新株予約権	358	2,954
純資産合計	449,223	387,001
負債純資産合計	1,778,457	1,653,636

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年3月1日 至2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年8月31日)
売上高	849,172	1,329,386
売上原価	412,098	560,184
売上総利益	437,074	769,202
販売費及び一般管理費	637,068	818,824
営業損失(△)	△199,994	△49,622
営業外収益		
受取利息	75	9
受取補償金	1,286	—
償却債権取立益	—	2,937
その他	53	303
営業外収益合計	1,415	3,250
営業外費用		
支払利息	1,596	7,887
新株予約権発行費	5,720	4,968
違約金	13,415	—
その他	1,005	166
営業外費用合計	21,737	13,021
経常損失(△)	△220,317	△59,393
特別利益		
事業整理損失引当金戻入額	—	8,841
特別利益合計	—	8,841
特別損失		
子会社移転費用	—	11,277
特別損失合計	—	11,277
税金等調整前四半期純損失(△)	△220,317	△61,829
法人税、住民税及び事業税	1,381	2,959
法人税等合計	1,381	2,959
四半期純損失(△)	△221,698	△64,789
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△221,698	△64,789

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年3月1日 至2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年8月31日)
四半期純損失(△)	△221,698	△64,789
四半期包括利益	△221,698	△64,789
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△221,698	△64,789

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年3月1日 至2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△220,317	△61,829
減価償却費	79,356	38,215
のれん償却額	3,777	11,127
貸倒引当金の増減額(△は減少)	19,876	542
賞与引当金の増減額(△は減少)	2,576	△2,330
情報利用料引当金の増減額(△は減少)	△1,483	△784
事業整理損失引当金の増減額(△は減少)	—	△26,301
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△176	2,446
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	—	838
受取利息及び受取配当金	△75	△10
受取補償金	△1,286	—
支払利息	1,596	7,887
新株予約権発行費	5,720	4,968
違約金	13,415	—
子会社移転費用	—	11,277
売上債権の増減額(△は増加)	△213,463	△35,918
たな卸資産の増減額(△は増加)	△4,113	△11,490
仕入債務の増減額(△は減少)	15,130	31,251
未払金の増減額(△は減少)	63,505	△16,562
その他	10,380	36,320
小計	△225,579	△10,352
利息及び配当金の受取額	72	8
利息の支払額	△500	△7,789
補償金の受取額	1,286	—
法人税等の支払額	△6,460	△17,064
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△231,181</b>	<b>△35,197</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△2,666	△719
無形固定資産の取得による支出	△254,004	△164,261
敷金及び保証金の差入による支出	△193	△9,300
定期預金の預入による支出	—	△500
定期預金の払戻による収入	—	600
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	2,999	—
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△253,864</b>	<b>△174,180</b>

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年3月1日 至2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年8月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	400,000	—
短期借入金の返済による支出	—	△25,000
長期借入れによる収入	18,000	40,000
長期借入金の返済による支出	△76,098	△69,796
株式の発行による収入	748,900	—
新株予約権付社債の発行による収入	—	148,800
自己株式の取得による支出	—	△28
新株予約権の発行による収入	2,960	2,596
新株予約権の発行による支出	△5,720	△4,968
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,088,041	91,603
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	602,994	△117,775
現金及び現金同等物の期首残高	521,387	852,414
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,124,382	734,638

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社グループはエンターテインメントサービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度まで2期連続となる営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失となり、当第2四半期連結累計期間においても、営業損失49,622千円、経常損失59,393千円、親会社株主に帰属する四半期純損失64,789千円となり、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が当第2四半期連結累計期間において存在しておりますが、2019年5月にマイルストーン・キャピタル・マネジメント株式会社を割当先とする転換社債型新株予約権付社債を発行し、151,396千円を調達した結果、当第2四半期連結会計期間末日における現金及び預金残高は735,938千円であり、当面の十分な手元資金を確保しております。また、同月・同割当先にて新株予約権を発行し、中期的な資金を確保するなど、財務基盤の拡充及び今後のグループ事業拡大のための資金調達を実行してまいります。併せて、資金の安定化を目的としたリファイナンス（借換）を2019年6月28日付で実施し、資金繰りの安定化に努めております。また、当社グループは当該事象等を解消するために、以下の対応策の実施により収益を向上させるとともに、コスト削減を行い事業基盤の強化を図ってまいります。これらの対応策を推進することにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております

#### ① ゲームサービスにおける運営移管タイトルの獲得及び運営タイトルの選択と集中

ゲームサービスにおける運営タイトルの獲得に関しては、他社が運営するタイトルの売上推移や運営元の要望等を踏まえて営業活動を継続的に行っておりますが、条件交渉を踏まえた上で、当社の強みである運営力を活かしたタイトルであるか、十分な利益を獲得できる案件であるか慎重に検討して案件獲得を進めてまいります。また、既存の運営タイトルに関しては、主力タイトルの売上を維持拡大するために優先的に開発・運営への経営資源を投入し、売上が低減しているタイトルについては、最低限の運用コストまで絞り込み、タイトルポートフォリオの見直しを図ってまいります。当社グループは、これらの施策を進めることにより、リスクを抑えつつ売上の維持・拡大を図ってまいります。

#### ② 運営タイトルコストの抑制及び削減

ゲームサービスにおける運営中のタイトルについて、タイトルから得られる収益に見合った適正人員数となるように人員の再配置を進めるほか、外注コストのグループ内製化を図っていくとともに、当社での運営が、採算上難しいと判断したタイトルについては、クローズも含めたタイトルポートフォリオの見直しを進め、運営コストの抑制及び削減を進めてまいります。

#### ③ 新規事業の早期収益化及び安定収益の確保

当社はゲーム以外のサービスとして、ライフエンターテインメントサービスを提供しておりますが、新たに、MAPULUS+を基幹としたプロモーションプラットフォームサービスを開始しております。当該サービスの案件獲得のための営業活動を積極的に進めるとともに、プラットフォームの開発を進めてまいります。これらの施策を進めることにより、新規事業において早期の収益化及び安定収益の確保を図るよう進めてまいります。

#### ④ 間接部門における経費の抑制及び削減

事業部門につきましては、上記施策を進めてまいります。また、間接部門につきましても、人件費を含む各種経費の抑制及び削減を継続的に進めております。また、子会社を含めた更なるオフィス統合や人員集約も視野に当社グループ拠点の再編を行い、一層のシナジー効果を発現させ、間接部門における経費の抑制及び削減を図るのみならず、今後も各種費用につきましては、継続的に見直しを進めてまいります。